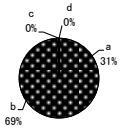
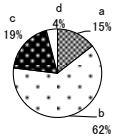
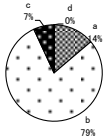
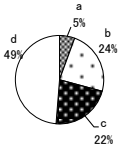
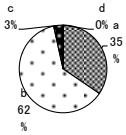
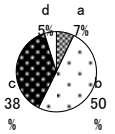
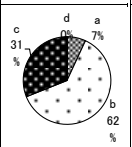
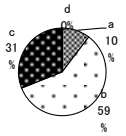
平成22年度　青雲高校　　学校評価シート

＊a:よくできた　b:できた　c:あまりできなかった　d:できなかった

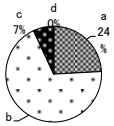
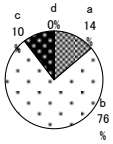
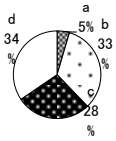
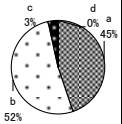
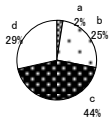
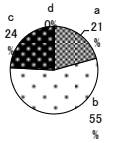
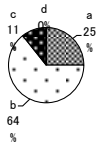
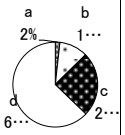
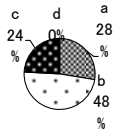
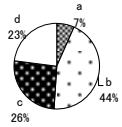
成果の数値は5点満点に換算したものである。

領域	評価の観点	評価項目		実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価		学校関係者評価	今後の方策
	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	実践目標	学校ホームページや「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。		「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っていますか。 成果　3．59		評価内容	定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通じて家庭や地域との連携を深める努力が感じられますか。	・学校HPにおいては各分掌との連携を深め、生徒や保護者等のニーズに沿った情報の発信に努めたい。 ・青雲通信においては、各分掌から出されるプリント類との重複を避けるとともに、生徒の目を引きつける内容にしたい。 ・オープンハイスクールや保護者授業参観をスクーリング日に実施するため、運営に十分な職員数が確保できない。そういった状況のなかでよりよい成果をあげるための工夫を行う。 ・来年度実施予定の1年次生保護者会においても、新入学生が学校生活に適応し、意欲的に活動できるための一助となる有意義なものにしたい。 ・内部評価と生徒アンケートの結果との差は学校行事に参加する生徒の割合が低いためだと思われる。人間関係が希薄な通信制高校にとっては行事への参加が果たす役割は大きい。その意味からも生徒が魅力を感じる行事にするための検討を続けたい。
			成果 4．14	青雲通信（年6回発行）などの定期発行物（定期発送やホームルームで配布）を通じて生徒・保護者の必要とする情報の発信に努めた。今後さらに、生徒の目を引きつけるとともに、保護者の目に届けるための工夫や改善を図っていく必要がある。 学校ホームページにおいては、内容の更新に努め、最新情報の発信に心掛けた。生徒・保護者だけでなく、地域住民等への情報の発信源となる、ホームページづくりに努めたい。						
			実践目標	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。		学校行事や文化祭・クリーン作戦などに参加しましたか。 成果　2．33		評価	・内部評価と生徒アンケートの結果との差が縮まるように望む。・外向けにもっと発信を続けることが必要。 ・　オープンハイスクールは非常に評価できる。・学校HPの内容更新や最新情報の発信に努力が感じられる。 ・地域住民等への情報発信は今後も大切な課題であり、引き続き努力に期待する。 ・努力を感じている。学校HPは生徒と学校をつなぐ有効なツールと思う。	
			成果 3．84	オープンハイスクールは今年度が初めての実施であったが、予想以上の参加者があった。中学生やその保護者にとってなじみの薄い通信制高校に対する理解や認識を深めることができた。また、同時に実施した保護者授業参観の出席者にも好評であった。 ふれあい祭には多数の保護者や地域住民が来場し、本校教育の一端を理解して頂けたのではないかと思う。 生徒のふれあい祭・春の交流会・クリーン作戦などの学校行事への参加者数については、ほぼ例年通りであった。生徒同士、生徒と教師、生徒と地域社会とのつながりをより強固にしていくためにも、学校行事への積極的な参加を促すための取り組みを進めていく必要がある。						
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	実践目標	安全な学校、より健全な学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。		禁煙指導や校内巡視を通して安全な学校づくりが進められていると感じますか。 成果　3．25		評価内容	安全で楽しい学校生活を送ることのできる環境づくりが進んでいると感じられますか。	・生徒が安全で楽しい学校生活を送ることができるようにするため、これまでの巡回経路等では目が行き届かなかった場所や、時間帯での生徒の動きをより入念にチェックし、問題行動を未然に防止できるよう努める。 ・学校行事等については、より多くの生徒から、感想や意見を求め、企画や内容の充実に生かすことができるよう努める。
			成果 4．14	自己評価と生徒評価の「差」を見ると、教員の目の届かない時間や場所での喫煙等があることが予想され、次年度へ向けての対策が急務であると思われる。						
			実践目標	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加数の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。				評価	・進んでいる。・クリーン作戦や地域交流型の文化祭等、学校生活と社会との結びつきについての環境づくりが進んでいる。・ボランティアなどの社会貢献といった人の役に立つ活動を今後も取り入れていかれたらよいと思う。	
			成果 3．45	既存の行事の内容について今後さらに生徒の興味関心を引くような趣向や工夫を凝らす必要があると思われる。						
			実践目標	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。						
			成果 3．49	学校周辺の清掃奉仕活動（クリーン作戦）や地域交流型の文化祭の内容を再点検し、より地域の方に響き、生徒自身も達成感を実感できるような活動にしていきたい。						

平成22年度　青雲高校　　学校評価シート

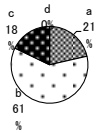
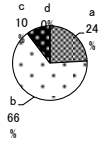
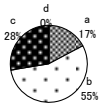
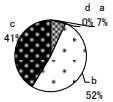
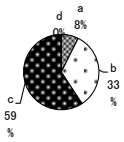
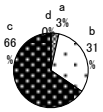
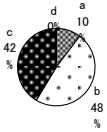
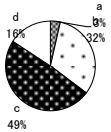
＊a:よくできた　b:できた　c:あまりできなかった　d:できなかった

成果の数値は5点満点に換算したものである。

領域	評価の観点	評価項目		実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価	学校関係者評価		今後の方策
学校運営		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	実践目標	キャンパスカウンセラーと教職員との交流(事例研修会)を設け、生徒理解の共通認識を深める。				評価内容	生徒の内面を理解し、支援する努力がされていると感じますか。	・不登校だけでなく、様々な問題を抱えている生徒の対応について、教職員のカウンセリングマインドのより一層の涵養を図れるよう、充実した研修会を計画する。また、広報活動においても専門的なカウンセリングを必要としている生徒・保護者のニーズに応えられるような情報を提供していきたい。
			成果 3．97	今年度のカウンセリング回数は、前期8回（延　22人）・後期6回（延15人）実施した。カウンセリング後、必要に応じ適切にカウンセラーと担任とがカンファレンスを行い、生徒の理解や支援に努めた。研修会では本校生徒の実態に合わせた「生徒への対応の仕方」などを体験ワークを通して教員の資質向上に努め、生徒理解の共通認識を深めた。						
			実践目標	「相談室だより」や教育相談に関わる掲示物、学校HP等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。		キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれることを知っていますか。 成果　2．60		評価	・多様な生徒への対応について、外部の意見とカウンセラー等の導入をもっと広めることが必要。 ・本校生の実態に対応した研修が実施されている。・広報活動の充実により、カウンセリング予約率が上がり、支援の努力が感じられる。 ・登校日が少ない分、サロン的要素を取り入れた校内の居場所が設置されるとありがたい。スクールソーシャルワーカーも必要。	
			成果 3．79	前期・後期開始前に「相談室だより」を発行し、カウンセリング実施日程のお知らせを行い、また、学校HPに掲載した「カウンセリング予約状況」がよく活用され、事前予約だけで毎回詰まっている状況であった。						
	進路指導	進路指導体制の充実	実践目標	年度当初に年間計画を全職員・生徒に示し、各時期における必要事項の確認を随時行う。		就職や進学に関する情報や手続きの仕方がよくわかりますか。（3・4年次のみ） 成果　2．53					・進路に関する情報を生徒に十分に提供できるよう、配布するプリント類のデザインや内容の工夫、学校HPや張り紙の活用を進めることで、改善していきたい。
			成果 4．27	職員には4月職員会議にて、生徒には定期発送にて年間計画を知らせた。また、各事業の実施時期の直前にはそれぞれ、詳細について知らせた。						
			実践目標	進路指導部と全担任が協力して大学・短大・専修学校等の情報を収集し、ネットワーク上でその内容を共有する。							
			成果 3．71	進路指導部と3・4年次の担任を中心にして、各学校の説明会等に出席して最新の情報を収集した。PC上にて報告し情報共有を行った。就職状況についても必要なことは朝礼等を利用して情報提供を行った。						
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践目標	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。		トキメキ仕事体験ひょうごカレッジについての案内を見ていますか。（2・3・4年次のみ） 成果　1．89					
			成果 3．93	ﾊﾛｰﾜｰｸ神戸を訪問する「ﾊﾛｰﾜｰｸ体験ﾂｱｰ」、県内約30校の専修学校で行われる「ﾄｷﾒｷ仕事体験ひょうごｶﾚｯｼﾞ」をｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟとして実施した。「ﾊﾛｰﾜｰｸ体験ﾂｱｰ」は2名の生徒が参加し、「ﾄｷﾒｷ仕事体験」は4名が9校に参加した。職業観・勤労観の育成を含め、生徒の進路意識を高めるように努めた。						
			実践目標	フリーターが増加する昨今、HRや「進路のしおり」等の配布物、就職説明会等を通じて、正規就労の意味や大切さを十分に理解させる。		「進路のしおり」や就職説明会を通じて、正社員になることの有利さや大切さがよくわかりましたか。（3・4年次のみ） 成果　2．93					
			成果 3．79	「進路のしおり」の配布、「就職説明会」、就職希望者との個人面談の機会を通じて、正規就労について理解を深めさせようとした。また、早期から生徒に意識をもたせるため、1～3年次の生徒を対象に「就職ｾﾐﾅｰ」を実施した。12名の生徒が参加し、ｱﾝｹｰﾄ結果から、ある程度目的を達成できたのではと考えている。						

平成22年度　青雲高校　　学校評価シート

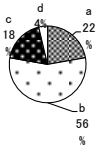
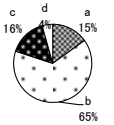
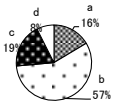
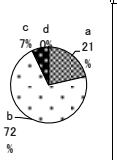
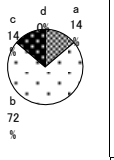
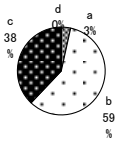
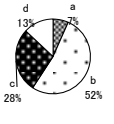
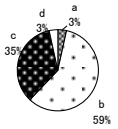
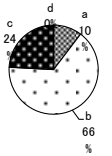
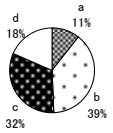
＊a:よくできた　b:できた　c:あまりできなかった　d:できなかった
成果の数値は5点満点に換算したものである。

領域	評価の観点	評価項目		実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価	学校関係者評価		今後の方策
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	実践目標	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。						・生徒の実態と教職員の希望に沿った研修会を計画的に実施し、実践力強化に努める。 ・面接指導の技術力アップを図るために通信制高校間の情報交換を促進していきたい。
			成果 3．79	学校評議員による授業参観は1度しか実施できなかった。地歴･公民科および人権HRの指導訪問があり全体的な指導力の向上につながった。管理職を含む教員の巡回は年間を通して実施された。						
		計画性を持った研修の実施	実践目標	当面する諸課題に対し、生徒指導・教務・教育相談・人権教育・情報図書等の各分掌が全教員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。						
			成果 3．92	本校の課題を的確に把握し、教職員の要望を踏まえた研修を企画運営した。生徒指導部:5月薬物・11月交通事故、教務部:1月・3月入試、情報図書部:4月着任者校務支援・4月～12月（水・金）ミニ・他6回、教育相談委:11月・2月、特別支援教育委:10月、人権教育推進委:11月						
			実践目標	特別支援教育コーディネーターを軸に研修を進め、教職員全体の支援能力の向上を図る。						
			成果 3．62	教職員の要望を踏まえて、特別教育支援センターから講師を招き基礎的内容の研修を進めた。教育相談委員会主催の研修会との相乗効果が得られ、気づきや支援計画を立てる能力が高まった。						
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。						・危機管理マニュアルを全面的に見直し、生徒の実態により一層即したものに手直しする予定である。
			成果 3．32	マニュアルの見直しが部分的にとどまった。AEDの取扱について確認し、生徒が自殺した場合のマニュアルを県からの資料を参考に手直しした。						
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	「通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制」を検討・工夫し、防犯に関する教職員の安全対応能力の向上を図るための取組みを行う。						
			成果 3．10	薬物と交通事故防止についての研修会を行った。危機管理に関する情報提供を生徒だけではなく、家庭へもプリントで配布しているが、地域との連携は進んでいない。地元の交番・警察署とは連絡を取っている。						
		教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践目標	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。						
			成果 2．97	年度当初に、防災管理組織とその任務を全職員で確認した。						
			実践目標	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようにする。		防災や交通安全に関する知識が身につき、意識が高まりましたか。 成果　2．79				
			成果 3．36	全職員で災害時の避難に際しての確認を行った後に安全HRを設定し、災害時の避難に際しての注意・避難経路の確認をクラス毎に行った。						

平成22年度　青雲高校　学校評価シート

＊a:よくできた　b:できた　c:あまりできなかった　d:できなかった

成果の数値は5点満点に換算したものである。

領域	評価の観点	評価項目		実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価		学校関係者評価	今後の方策
	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	実践目標	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。		青雲高校ではどのようにすれば単位が修得できるかが分かりやすいですか。 成果 3．63		評価内容	通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がされていると感じますか。	・本校生の実態を見極めながら「学習内容の基礎・基本」について議論を継続していく。
			成果 3．70	「数学入門」は分数計算の問題を、「英語入門」は指示代名詞や形容詞を減らした基本的な文をそれぞれ増やした。また、「社会入門」は参考資料を中学校の教科書をもとに改善した結果、レポートの解答状況が改善された。次年度より総合的な学習の時間で「学習の仕方」について理解を深める取組を推進する。		他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。 成果 3．53		評価	・入門科目があることはおおいに評価できる。 ・電子放送視聴を全教科で実施され、利用数が増加している点が評価できる。学習システムが自分のペースになじんでくれば、理解はさらに深まる。これまで以上の個別の対応の必要性を感じる。	
課題教育	安全・健康教育	事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	実践目標	安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会等を実施する。						・生徒の受診率アップに努めたい。特に1年次生に対し、健康診断の重要性を啓発したい。 ・はしか等の予防接種率アップにも努めたい。
			成果 3．93	月毎の安全点検と定期的な検査を行い、良好な学習環境の維持管理に努めた。(財)神戸市防災安全公社と連携して、職員対象の普通救急救命講習会を実施した。職員はQマスク(人工呼吸用携帯マスク)を携帯し、すばやく救急処置が取れるように努めた。						
		健康に関する認識を高める取組み	実践目標	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。						
			成果 3．75	「保健だより」を通じて、健康への関心を高めた。1年次以外にも自費による胸部レントゲン間接撮影の受診機会を設けた。健康診断が5月に実施できたので、昨年度より受診率は上がった。事後に、個別の治療勧告を行った。保健室利用者への丁寧な対応に努めた。						
	人権教育	人権教育推進体制への取組	実践目標	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。		人権HRを通じて労働者の基本的な権利がよく分かりましたか。 成果 3．16				・人権HRでは、生徒に身近な人権問題を取り上げ、人権意識の高揚をさらに図れるよう、今後も工夫したい。人権HR教材については通信教材として研究を重ね、生徒が興味をもち、わかりやすい教材作りをすすめていきたい。人権教育の根幹である、「多様な生徒を、個々に大切にする」教育目標を今後も希求していかなければならない。
			成果 3．32	労働者の人権、デートDVなど、様々な生徒にとって身近な人権問題を取り上げ、生徒の興味関心を高めることができた。これまでの実績を元に、「身近な人権」を軸に4年間の学習計画を構築した。人権HRに出席できなかった生徒にどのような教材を提供できるかについて工夫の余地がある。						
			実践目標	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係をとり、生徒一人ひとりを大切にする人権教育推進体制を構築する。						
			成果 3．28	個々の生徒を大切にする人権教育の理念は「特別支援教育」・「心のサポート」の実践も含め、浸透している。今後も一人ひとりを大切にする教育実践を目標として努力したい。						
	新しい通信制教育	インターネットの活用による新しい通信教育の実現	実践目標	Seiun－Webスクールや青雲e－ラーニングを使い、生徒の学習支援を進める。		e-ラーニング(インターネット上での放送視聴など)を利用したいと思いますか。 成果 3．02		評価内容	新しい技術を使って、生徒の興味関心を高めたり、時間の不足を補ったりする工夫がされていますか。	・TV会議システムによる協力校支援の試行を実施する。 ・インターネットの積極的活用を図る。 ・レポート理解やスクーリングに活用できる補助教材の作成を進める。
			成果 3．58	教科、担任からのお知らせをスクーリングの直前に一斉に更新するように呼びかけたが、徹底できなかった。電子放送視聴は全教科実施できた。レポートの提出状況・締め切り・担当などの情報やスクーリング時間割なども手軽に携帯電話やパソコンで利用する生徒が見られるようになり、積極的に活用されている。インターネットでの放送視聴利用者が昨年度とほぼ同じであり、一定数の需要がある。「a.よく利用できた」の割合が8%から11%へと増加している。				評価	・e－ラーニング等のPCを活用することが増え続けると思われるので、ITに関する授業の充実を望む。 ・e－ラーニングによる支援の更なる拡大と直接相対するスクーリングに繋がる工夫も必要と考える。	